

2023 年度 (令和 5 年度) 事業報告書  
(2023 年(令和 5 年)4 月 1 日～2024 年(令和 6 年)3 月 31 日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

## 1. 事業の活動方針

2023 年度は、2022 年度から開始した新規事業やこよりどうカフェの定着、財政基盤の強化、全国への居場所やウェルカムベビープロジェクトの展開に力を入れていくために、以下 3 点に注力して活動を展開してきた。

1 点目は、ライフステージの変化があっても孤立しないことを目的に立ち上げた事業の定着に力を入れた点である。具体的には、2 店舗目となるこよりどうカフェ(お寺とコラボしたカフェ型居場所)の運営の安定化、保育園にお惣菜をお届けする連携事業(働いている子育て世帯へのアウトリーチ事業)を軌道に乗せること、2022 年度から開始したウェルカムベビープロジェクトの LINE 事業(産前産後の切れ目ない情報提供)を推進すること等である。どの事業においても、足を運びやすい仕掛けや「参加の余白」を意識し、創り手と受け手の関係ではなく参加の循環が生まれるよう意識して活動を行った。

2 点目に、事業売り上げ・ご協賛・ご寄付・事業開拓等様々な方法を通して財政基盤の強化をすることを試みた。利用者負担だけではなく様々なステークホルダーの方々に事業を支えていただきビジョンに近づけるように、体制を整えることに注力した。

3 点目に、居場所やウェルカムベビープロジェクトが全国に広がるよう、全国の NPO 法人・中間支援団体・企業・自治体等と連携を試み、提案を行った。結果、岡山県や長野県での居場所づくり講座の実施につながった他、他地域への広がり素地を築くことが出来た。

## <事業内容>

### I. 子育て情報の提供

#### 1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集し、ネット上に毎月 100～200 件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】コロナ禍による影響がほぼなくなり、更にイベント情報が増えてきたことを実感する 1 年間となった。パートナーさんたちによるイベント情報入力作業が 2 年目となり、入力量の増加がありながらも、各々のペースで確実に入力作業を進めることができ、安定した取り回しができた 1 年だった。2023 年度の終わりに、入力してくださるパートナーさん 1 名が抜けられたが、残りのメンバーで滞りなく進められるようになった。2023 年度は、最終チェックを行える人材を増やすべく人材養成にも力を入れてきた結果、複数で最終チェックができる体制が整った。しかし、最終チェックの分担や連携が難しく、今後の検討事項としたい。また、地域こそだてカレンダーの存在を知った方から、「区内で開催されているイベント情報がカレンダーで一覧になっていること、スクロールも最小限でキーワードと動ける日にちを検索するだけでヒットすること、チラシも添付されていることがありがたい」という声を頂き、励みになると同時に引き続き、届いたイベント情報を迅速に入力・公開できるような連携を図る工夫を重ねていきたいと考えている。今年度の地域こそだてカレンダーの閲覧数は約 12,000PV である。

- ・日時:通年
- ・場所:神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員:10 名

- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 12,000 名程度
- ・支出額：200,652 円

## 2. とつかの子育て応援ルームととことこ 情報スペース運営事業

- ・内容：【概要】年間約 1 万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設に於いて、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1 人の情報コンシェルジュが常駐し、月間 100 件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】今年度はとことこ便りの作成や、区が発信するエックスへの投稿の発信に加え産後から徒歩圏内で行かれる屋内の施設情報や外出先の情報発信に力をいれた。中でも地域資源の発信のひとつとして、戸塚区内全地区センターのプレイルームに情報コンシェルジュが足を運んで取材し、写真とマップがセットになった情報をとことこ内の壁面に掲示する他、各地区の子育て支援者が中心として作成している「おさんぽマップ」の情報更新の確認と補充に力をいれた。また、壁面掲示ではテーマごとに地域に点在するイベント情報を集約し情報を 2 次元コード化、スマートフォンで速やかに情報が得られるよう工夫した。地域子育て連絡会やつどいの広場連絡会、赤ちゃん訪問員連絡会に出席、地域の子育て支援者との情報交換することで、保護者のニーズや実態を知る機会も得ることができた。また、相談では来所者にどんなときも安心して訪れることのできる雰囲気を大事にするよう日々心がけた。その結果、雑談の立ち話から相談につながるケースも多くあった。年度後半では、情報コンシェルジュとして新たに 2 名のスタッフを迎え、特に傾聴に重点をおき研修を行った。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 16-17
- ・従事者人員：5 名
- ・受益対象者：のべ 9,921 人
- ・支出額：1,740,888 円



↑ 戸塚区役所 3 階



↑ 情報スペース

## II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

### 1. こまちカフェ

- ・内容：【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩 7 分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機の創出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場の創出を行っている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場がつくられている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】主に子育て世代の方・地域の方に安心して過ごしてもらえるような運営を心がけ、年間を通してランチメニュー・ドリンクメニューの開発を行い、常に新鮮な気持ちでカフェをご利用いただけるように努めた。より沢山の方がカフェに足を運びやすいようにと、イベントスペースの活用などスタッフのアイデアから、誕生日会企画の「ぶちば」などを企画し、定期開催として実施。また、団体のお客様にご利用いただく機会となるよう、パーティープラン等を新しく開始した。保土ヶ谷支援学校舞岡分教室からの生徒さんの実習受け入れや新1年生の職場見学、南戸塚小学校からのまち探検授業の受け入れなども行った。近隣の戸塚小学校の生徒さんたちが育てたトマトを今年もいただいたことをきっかけに、生徒さんをカフェに招いたり、キッチンスタッフが戸塚小学校にご招待いただいたりと交流が図れた。リラの家のミールサポートでの出張料理や、お弁当の宅配も例年通り続いている。その他新規出店先も含め、多数の外部出店も行い、こまちカフェを広く知っていただく機会となり、地域との交流もできた。3月には岡山県に出張「ワンデーこまちカフェ」を開催し、他地域の皆さまへこまちカフェでの取り組みをお伝えする機会となり、スタッフ自身も日々やっていることの意味を再確認することができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：15名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ7200名程度
- ・支出額：12,986,783円



↑戸塚小の生徒さんが育てたトマトで作ったスムージー



↑お誕生日ぶちばプレート



↑パートナーさんがカフェキッチンで仕込みをしている様子



↑パーティープラン@イベントスペース

## 2. こよりどうカフェ

- ・内容：【概要】2022年12月に「こまちカフェ」姉妹店として、善了寺境内に「こよりどうカフェ」をオープン。こまちカフェ同様に、子育て中の方々が気軽に利用できるカフェとしての運営をすると共に、お寺の境内であることや敷地内に高齢者の介護施設があること等の立地条件も活かし、多世代が集える場となることを目指している。利用者のみならず、運営に携わるボランティアも年齢や障がいの有無を問わず様々な方が関われる場として運営。日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）にて、居場所を運営しながら、近隣の保育園と連携しお惣菜を園に届ける取り組みや、障がいのある方の就労移行支援事業所との連携も進める。また、お惣菜のテイクアウトにも力を入れ、居場所に足を運び過ごすことが難しい方々との接点を作るこ



ともに取り組む。

【今年度の成果】開店一年目の 2023 年度は、日々安定した運営ができるようスタッフと共に日々の運営の工夫やチーム体制を整える一方、新しいメニューの導入とそれに伴うレシピ開発、お店のコンセプト等をまとめた「カフェブック」や LINE スタンプの作成や更新、デザートプレートの開発なども行った。リーダーを中心に多くのアイデアを出しながら取り組みを進められた。また、ランチメニューの構成も見直し、注文する側の分かりやすさ・選びやすさの改善を図ったことでご案内もスムーズになり、結果的にスタッフの負担の軽減にもつながった。また、来店したことがない方にも情報を届けられるよう、SNS での動画配信を行った。7 月からは子育て中の方以外の方の来店の機会となるよう terabaru(17:00～21:00)の営業も開始した。これまでのこよりどうカフェで開催してきたイベントとは異なる分野や、好きなこと・趣味でつながるようなイベント、子どもや男性も参加できるようなイベントなども行い、多世代が集える場になった。また保育園に惣菜を届ける事業では、利用してくださる方にヒアリングを行い、より利用しやすい事業となるよう改めて考える機会となった。

○地域連携：近隣保育園 3 箇所（うち 1 箇所お試しのみ）と連携しお惣菜のお届け事業を実施した他、3 箇所にてお惣菜の出張販売を実施した。また、商店会のイベントとして、保育園、就労移行支援事業所、高齢者デイサービスと連携し、キャンドルナイトを実施した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区矢部町
- ・従事者人員：20 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 10,000 名程度
- ・支出額：18,128,238 円



← 7 5 3 プレート

← 1 周年アニバーサリープレート

↓ terabaru

↓ 保育園にお届けするスタッフ



### 3. お菓子部門

- ・内容：【概要】「こまちカフェ」お菓子工房において、主にクッキーやケーキなどの焼き菓子を製造し、店頭・オンラインショップ・外部イベント等にて販売。小麦・乳・卵を使わず、アレルギーのある方もない方も一緒に食べることのできる、「心とからだにやさしいお菓子」を開発する。カフェへの来店動機を作るとともに、カフェに足を運べない方にも菓子の配送を通じてこまちカフェとつながる機会を創出する。製造工程や作業を分担するほか、イベント販売に参加するなど、ボランティアやインターンの方、地域の方など多くの方が関わることのできる事業として取り組む。

#### 【今年度の成果】

2022 年末に拡充した菓子製造設備を活かし、こまちカフェ・こよりどうカフェともに毎日多種類の焼き菓子が店頭に並び、お客様の予算や希望に合わせた対応も可能となった。

毎月のクッキー缶「Tamatebako」をはじめ、母の日、父の日、ねこの日ミニ缶など、季節や行事に合わせたクッキー詰め合わせをオンラインショップで販売、カフェに足を運べない遠方の方にもお届けすることができた。

また、お誕生日ケーキや季節感の感じられるデザートプレートを開発、こまちカフェで提供して 来店のきっかけとなるよう努めた。

スタッフだけでなく、こまちパートナーやインターンの学生など様々な人が関わることのできる場となり、「とつかストリートライブ」「戸塚ふれあい区民祭り」など地域のイベントでの出店販売や、企業様からの大口の受注にも対応、より多くの方に手づくりのお菓子を届けることができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：12 名
- ・受益対象者：区内外の一般市民のべ 2,000 名程度
- ・支出額：3,275,172 円



↑ クッキー缶 Tamatebako



↑ わんわんの日 ミニ缶



↑ 9 周年 アニバーサリープレート



↑ 焼き菓子詰め合わせ



#### 4. 参加のデザイン

- ・内容：【概要】飲食やイベントなどをきっかけに訪れた方々が、「互いに関心を持つ」や「自分の思いを語り合う」といったゆるやかな入口からスタートし、自身の「やってみたい」を見つけ、やがて「地域課題や他者のニーズと掛け合わせることで自分らしい参加と活躍のできる機会をつくり出す取り組みをしている。
- 【今年度の成果】今年度は参加のしやすさを意識し、来店して下さるお客様が登録会前に参加する機会を作り、お試しやお手伝いとして参加する機会を作った。1～2回参加したあとに、こまちカフェとこよりどうカフェにて交互に行っている月1回パートナー登録会に参加という新たな流れをつくった。結果54名がパートナー登録、累計登録数317名となった。同時にパートナー登録会の直後に見守りや軽作業、キッチン補助などのボランティア体験をコンテンツとして新たに盛り込み、ご自身のやってみたいボランティアのイメージをもつ機会もつくった。同じメンバーで半年間交流するパートナーぷらす交流会では10名の参加があり、スタッフとともに学びと交流を深め、関係性を育んだ。結果、多くのパートナーが主に、継続的な関わりを生むことができた。その他、こまちパートナー公式LINEではスタッフが連日お手伝い募集の投げかけを行い、見守り、お弁当やお惣菜、お菓子作りなど単発のお手伝いにも多数のパートナーさんの参加があった。チラシ折りなどの軽作業や在宅での地域こそだてカレンダーの情報入力を含めると述べ106名のパートナーの力添えがあった。また今年度から新たに満6歳以上で保護者と共に登録する「キッズパートナー制度」を導入し、親子で単発イベントのお手伝いや軽作業を行う子どもの参加の機会を作った。
- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ100名程度
- ・支出額：162,646円



↑キッチンでのパートナーさんの様子



↑イベントカレンダー表紙（見守りの様子と登録会について）

### III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

#### 1. 「でこぼこの会」（発達障がいをもつ子どもの親を対象に情報発信・イベント実施）

- ・内容：【概要】毎月1回お子さんの発達に不安を持つ親・支援者・当事者の方が集まり、お話しと、依頼した講師による勉強会を交互に開催。
- 【今年度の成果】2023年度もお話しと勉強会を交互に開催。毎年恒例の公認心理師による勉強会や、でこぼこのお子さんのための保護者向け算数教室、先輩ママのお話を聞く会の他、数年ぶりにランチ会を開催した。美味しいこまちカフェのランチをいただきながらのお話しはいつもより参加者同士が打ち解けて話ができたと「またやってほしい」との声をいただいた。お話しは予約を開始するとすぐに満席になることが多くキャンセル待ちが増えたため、3月は2回お話しを開催した。キャンセル待ちの方にも参加

していただけるよう、キャンセル待ちで参加できなかった次の回には優先予約の連絡をしている。また、昨年同様に父親も参加できるよう、日曜日に「子どもの将来のために必要なこと～親子の関わり」のタイトルで講師に「こども家庭支援センターにじ」の社会福祉士河西氏をお招きして勉強会も開催した。通年で戸塚区内で親子支援をしているボランティア団体の集まり「ポンテ」のミーティングに月に1回参加し、ポンテ主催の講演会を開催することができた。

- ・日時：4月7日、5月1日、6月2日、7月7日、7月23日、8月4日、9月1日、10月6日、11月6日、12月1日、1月10日、2月2日、3月1日、3月20日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ97名
- ・支出額：214,140円

## 2. ケアラーズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会となる場を開催。

【今年度の成果】子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指し活動した。2022年度に引き続き、参加者にヒアリングした際に関心の高かった「介護保険」「介護とお金について」等のミニ勉強会も取り入れたほか、2023年度は担当スタッフが3名に増えたこともあり、新しい企画である「フットケア」や「園芸療法」なども開催した。また、こよりどうカフェのある善了寺境内のデイサービスのご協力のもと施設見学会等も実施した。

- ・日時：4月17日、5月15日、6月19日、7月24日、8月30日、9月13日、11月29日、12月15日、1月15日、2月19日、3月18日 計11回実施
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ51名
- ・支出額：92,517円



## 3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」（不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月1回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒（学齢期）の家族の方がお話

をする場を開催。

【今年度の成果】事業の立ち上げ6年目となった2023年度は、引き続き当事者同士がそれぞれの状況や思いを話すことで「自分だけではない」ということを感じたり、情報を得たりすることで、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。勉強会では、不登校・ひきこもりの子を育てた経験のある方から進路についての話を聞いたり、不登校経験をした当事者の方の話を聞いたりすることで将来の不安を和らげていただくことができた。また、スクールカウンセラーの方をお招きし、学校現場の状況・スクールカウンセラーの役割・大切にしている事等お聞かせいただく機会も設け、相互理解を深めることができた。また、2020年に開設した、会の参加者だけが参加できるオープンチャットは、月1回の会では補えない情報提供や、気持ちを吐露し共感しあえる一つの居場所として成立しはじめた。年間を通し、こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支援してくださった。「はまおやネット」という横浜市内で親の会を主催する支援団体のネットワークの場や、ポンテという区内のネットワークの会にも参加し情報交換をしている。

- ・日時：4月28日、5月26日、6月24日、7月28日、8月25日、9月30日、10月27日、11月24日、12月23日、1月26日、2月24日、3月22日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ88名
- ・支出額：140,594円

#### 4. 「ただい間のおうち」（不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている学齢期児童・生徒の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月1回金曜日の夜に、不登校・ひきこもり・生きづらさを感じている児童・生徒(学齢期)の親子が外に出て家族以外の第3者と交流できる場を提供。

【今年度の成果】不登校・生きづらさを抱える子どもたちが、何をしても何もしなくても良い、自分らしくいられる場所の提供を目指した。味噌玉づくりや、白玉ぜんざいを作りなど、みんなで作って食べるというイベントや、主催者と共に音楽を楽しむ「つむ音」イベントを共催した。大人が全力で何かを楽しむ姿を見せることで、お子さんも自然と笑顔が見られるようになった。親子で安心して過ごせる場を持つことができ、参加をきっかけに積極的に外に出られるようになったお子さんもいた。「ただい間のおうち」を卒業したお子さんが、学校生活に疲れた時や長期休みなどに参加してくれる姿も見られた。高校生・大学生ボランティア、こまちパートナー、有志の方、スタッフなど多くの方が活動に関わってくださった。

- ・日時：4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、9月15日、10月20日、11月17日、12月15日、1月19日、2月16日、3月15日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ115名
- ・支出額：64,284円

#### IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

##### 1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容：【概要】こまちカフェ・こよりどうカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。

【今年度の成果】こまちカフェ・こよりどうカフェで、ゆるやかに人と人がつながることのできる場として、イベントを開催、また特技や資格を活かしてチャレンジする機会としてレンタルスペースの貸出も



行った。

○こまちカフェ：定期契約 13 名を含め、のべ 19 名の方にご契約いただき、子育てに関する講座やおしゃべり会、ヨガなど体を動かす講座、手形アートや編み物などの手作りワークショップ、整体施術やする講座、親子遊びや撮影会、在宅起業の勉強会など、年間約 450 件の多種多様なイベントが開催された。

○こよりどうカフェ：定期契約 2 名を含め、のべ 20 名の方にご契約いただき、ベビーヨガや子育てに関する講座やおしゃべり会、手作りワークショップ、整体施術やする講座、親子遊びなど、年間約 90 件の多種多様なイベントが開催された。

○全体：両カフェのチラシ 1500 部を、こまちパートナーの協力も得て戸塚区内を中心に約 50 か所の施設・店舗に配架を行った。両カフェともに SNS を活用して、様々な媒体からより多くの方への情報発信・告知を行った。3 月にイベント主催者が集まる契約者交流会を開催し、それぞれの活動や思いを共有して情報や意見を交換する機会となり、横のつながりを作ることができた。レンタルスペース料金支払いでは、不定期契約者はオンライン支払いを可能とし、定期契約者は 3 か月分まとめて支払いも可能することで、課題となっていたレジ混雑時の待ち時間の軽減・銀行の振込手数料負担や支払いのための来店の手間を省くことができた。チラシ作りにおいても、毎月内容が変わらないイベントについては、毎月提出していた書類提出の作業をなくして日付のみの確認にするなど、契約者の作業軽減を行った。契約者が利用しやすいシステム作りをすることができた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：5 名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ 2,200 名程度（オンライン参加者を除く）
- ・支出額：1,559,447 円



↑こよりどうカフェイベントカレンダーチラシ（毎月発行）↑契約者交流会



↑幸せおむつ外し講座



↑こよりどうベビーマッサージ

## 2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。

地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方（自宅にいながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】年4回のハンドメイド即売会をこまちカフェにて開催し、20～30名の契約者が参加した。当日の客層は子育て中の母親にとどまらず、多世代にわたる方の来店があった。3月開催の即売会では「キッズ作家さん販売体験」として小学生の出店枠を設けたところ2名の参加があり、10代～70代と幅広い世代の契約者が参加する様子が見られた。10月開催の即売会では雑貨販売の他に飲食提供も行い、契約者にも飲食部門でのお手伝いに入ってもらうことで参加・交流の機会をさらに増やすことができた。即売会は契約者同士の交流の場であることはもちろん、ハンドメイド雑貨を通じてお客様と契約者との交流の場にもなっている。年4回と定期的に開催することで、常連のお客様も増えてきている。契約者同士の交流としては、即売会とは別に「作家さん交流会」として交流の機会を年4回設けた。

また、こよりどうカフェでは6・11・2月に「おしゃべり会」イベントと連動した雑貨展示を展開。テーマを動物（鳥・犬・猫）に絞り、好きな人同士好きなものについて会話を楽しむ会と、テーマに合わせた雑貨の展示販売を同時期に行った。イベント参加で初めて来店した・こまちカフェやこよりどうカフェを知ったという参加者が多く、こまちぶらすを知ってもらう新たな切り口となった。こよりどうカフェはテーマ展示のほかにも常設展示を開始し、より多くの利用機会を増やすようところがけた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ1,500名程度
- ・支出額：888,224円



↑小学生の即売会参加の様子



↑即売会での飲食部門お手伝いの様子



↑テーマを設けたハンドメイド品販売 V. 地域の

## V.多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

### 1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「まち全体で赤ちゃんの誕生をお祝いし子育てを応援する社会」を目指し、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。2016年にヤマト運輸株式会社神奈川主管支店との協働で立ち上げ、2018年から横浜市鶴見区、2020年から千葉県松戸市でも取り組みが開始。2022年には茅ヶ崎市でも支部が立ち上げられた。横浜市子ども青少年局後援事業。出産祝いの内容は選考会にて4人の選考委員により認定されたものが入っており、申し込みがある世帯へ無料で配布している。（選考会開催は横浜市戸塚区・鶴見区）このプロジェクトの資金は民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）を主としてまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。

【今年度の成果】年間通して4つの支部で贈った出産祝いは戸塚840、鶴見401、松戸300、茅ヶ崎約140と合計約1680人の赤ちゃんに贈ることができた。

## [戸塚支部]

### ○出産祝い部門

2023 年度出産祝いの発送数は 840 個となり、参加企業団体数 11 社であった。2023 年度は受け取り家庭の状況分析を行い、受取の多い地域、受取のきっかけ、出産祝いに関する情報取得の場等をアンケート結果からまとめた。その結果、広報へ力を入れる地域や手段について検討し、広報活動へ役立てた。また、パートナー企業へ受け取り家庭の状況について説明を行った。

まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」については、2023 年度も地域ケアプラザや商業施設のイベントで縫っていただき、また、高齢者施設等でも利用者のレクリエーションの一環として、作成いただき、多様な世代が関わってくださっている。

### ○産前部門

戸塚区在住の妊娠中から 0 歳児の方（主に生後 4 カ月頃までの方）を対象とした「とつかウェルカムベビーLINE」にて毎週 1 回程度情報を届けた。戸塚区内の産前産後の情報を得られる場や媒体の紹介、プロジェクトの出産祝いやイベントの案内、行政サービスやサポート情報、防災関係の情報を届けた。現在、367 人の登録者がいる。（2024 年 4 月 14 日現在）

2023 年 9 月には、こよりどうカフェにて戸塚区子育て支援拠点とつと芽に協力いただき、「助産師さんと沐浴体験&カフェタイム」を実施した。3 組の参加者があり、助産師さんからのお話、沐浴体験を実施し、先輩ママと交流を行った。

### ○産後部門

産前産後の母親の交流の場として、月 2 回程度こまちカフェにて「ゆるっとママカフェ」の実施。2023 年度は、合計 18 回のべ 87 名の参加があった。参加をきっかけに母親どうしが連絡先の交換等を行い、こまちカフェでのランチ会を実施するなどの発展も見られた。一定数のリピーター参加もありながら、新規の参加者やマタニティの参加者もあった。

### ○タウンサポーター/ナッピーデー

子連れでの外出を後押しし、まちの様々な場が「ウェルカムベビー」となることを目指し、子育てを応援、子連れでの来店を歓迎する商店等に「タウンサポーター」として登録していただいている。登録店舗のうち任意にて、プロジェクトを支援する寄付ボックスを置いていただき、店舗と共に毎月 7 日を「ナッピーデー」として、子連れでの来店客への各種サービスをするイベントも実施。タウンサポーターは 2024 年 3 月現在 12 店舗、うち 8 店舗がナッピーデーに参加。ナッピーデーは 2023 年 4 月～2024 年 3 月で 12 回開催した。

### ○パートナー企業との連携

ウェルカムベビープロジェクトへ参加する企業とコラボレーションしてのイベント実施や活動を行った。

- ・お散歩イベント：地域商店、슈ーパーツ・フットケア製品の製造販売企業と実施。
- ・離乳食イベント：粉・液体ミルク製造販売企業、生活用品企画製造販売企業（離乳食スプーン）と実施。
- ・地域商業施設における子育て層の利用しやすさを考慮したトイレ改修工事への協力。

## [本部]

### ○支部連携・展開

鶴見支部（事務局：NPO 法人つるみままっぷ）、松戸支部（事務局：まつどでつながるプロジェクト）、茅ヶ崎支部（事務局：地域のお茶の間研究所さろんど）への個別の振り返り及び、全支部での交流会を実施することで、プロジェクト実施における課題を見つけ、相談し合う時間を年 3 回設けた。また、ウェルカムベビープロジェクトの事業や実施に関心ある方向けの講座を年 1 回実施した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市を中心に、全国



- ・従事者人員：7 名
- ・受益対象者：戸塚区・鶴見区・松戸市・茅ヶ崎市で生まれた赤ちゃんのご家庭の方、のべ 2000 名程度  
企業、一般市民などのべ 300 名程度、計のべ 2300 名程度
- ・支出額：4,644,385 円



↑ 出産祝い選考結果発表会（戸塚）



↑ 出産祝い（戸塚）



↑ お散歩イベント（戸塚）

## 2. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・内容：【概要】105 名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。「子どもも高齢者も障がいのある人も、誇りと居場所と出番を感じられる地域」を目指し、商店会としてできることを模索しながら活動している。

【今年度の成果】2023 年度は、毎月の定例会(年 11 回開催)に加え、新たに理事会を 2 回、他商店会の会員を含めた懇親会を 2 回開催するなど、内外の交流と議論の機会が増えた。情報発信としては会員向けにほのぼの便りを毎月 1 通作成、定例会の議事録の共有。対外的にはInstagramでの発信に力をいれた。4 年振りの開催となった戸塚夏まつり内では、「ほのぼの祭り」を開催し、24 店舗が出店した。その他イベントとして、10 月はしご酒ライブ、11 月ほのぼのフェスタ、1 月おもちつき大会を開催し合計約 1800 名の地域住民が参加した。10 月～1 月にかけて単会でのプレミアム商品券の販売と運用を行い、42 店舗が登録し商店会の活性化につながる試みとなった。また、SNS の媒体に触れる機会の少ない方向けに紙媒体の商店会マップを 3000 部作成した。その他 2023 年度は「商店会のファンを増やし、まちに参加の機会をつくる」をテーマに地域サポーター制度について議論し、参加ツールとして公式 LINE のテスト運用を開始した。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：105 名
- ・支出額：1,018,973 円



↑ ほのぼの祭り(とつか夏まつり 2023)



↑ はしご酒ライブ



← ほのぼのフェスタ 2023



↑もちつき大会

## VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

### 1. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通じた提言啓発を実施。

【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぷらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。2022 年度に引き続き、「カフェ型居場所の展開」として、他地域や他団体に向けたこまちカフェの運営についての実務講座を実施した。さらに、2022 年度に取り組んだ「心地よい関わりのある居場所をまちに増やす」ための提言を元に、居場所を作りたい事業者当事者のみならず、その事業者を支える中間支援団体や関心のある民間企業への働きかけも行い、日本中に「心地よい関わりのある居場所」が増えていくよう努めた。

- ・日時：通年

#### [主催講座]

- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～飲食編～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～手作り小物販売～
- ・カフェ型居場所のはじめ方講座～イベントスペース貸し出し～
- ・居場所づくり学びあい講座～心地よい関わりが生まれるカフェのつくりかた～  
オンライン通常版/岡山版

#### [視察/研修]

- ・NPO 法人みどりなくらし 視察
- ・NPO 法人 a little 研修
- ・海外日系人協会 視察
- ・神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ 研修
- ・金沢区地域振興課 視察
- ・鶴見区地域づくり大学校 視察
- ・男女共同参画ワークショップ
- ・cotonowa 視察 等

#### [講師派遣/講演会等]

- ・神田外国語大学、フェリス女学院大学、舞岡高校にて講演
- ・認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ主催イベントにて登壇
- ・婦人之友社主催イベントにて登壇
- ・船井総合研究所にて講演
- ・一般財団法人 オレンジクロスにて講演
- ・ちくままちづくり文化祭
- ・神奈川県教育委員会 令和 5 年度生涯学習指導者研修「家庭教育支援コース」の事例発表
- ・さかえつながるフォーラム

- ・女性塾(平塚)
- ・いずみ区民活動支援センター 他

[講師派遣/ICT 支援]

- ・東戸塚地域ケアプラザ スマホ講座
- ・睦コミュニティハウス&ケアプラザ スマホ講座・LINE 講座

[その他 取材対応/調査協力/アドバイザー/おしゃべり会ファシリテーター等]

- ・横浜夢ファンド ファシリテーター
- ・緑園都市小学館アカデミーの園長より依頼
- ・神奈川県知事との対談 他

- ・場所：神奈川県、東京都、京都府、岡山県、オンライン対応等
- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 500 名程度
- ・支出額：2,779,225 円